

小林市文化財調査報告書第4集

鬼塚ヒレ原遺跡

鬼塚地区特殊農地保全整備事業に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1992

宮崎県

小林市教育委員会

序

小林市教育委員会では、平成3年度鬼塚地区特殊農地保全整備事業に伴い、西諸県農林振興局の委託を受け、宮崎県文化課の協力のもとに遺跡の発掘調査を行いましたところ、弥生時代のものと思われる掘立柱建物が発見されました。また、縄文式土器、弥生式土器、石器などの遺物が出土しました。

今回の調査により、この鬼塚地区の歴史の一端が明らかになることを心から期待しております。

なお、調査に当たって、ご理解をご協力をいただいた黒沢津土地改良区、西諸県農林振興局、宮崎県文化課島関係各位に対し、深甚の謝意を表しますとともに、発掘調査に従事くださいました皆様に対しても厚くお礼申し上げます。

平成4年3月

小林市教育委員会

教育長 山口寅一郎

例　　言

1. 本書は、小林市大字南西方の鬼塚地区特殊農地保全整備事業に伴い、平成3年度の実施した鬼塚ヒレ原遺跡の発掘調査である。
2. 発掘調査は、小林市教育委員会が主体となり、社会教育課主事中村真由美が担当した。
3. 調査組織は次のとおりである。

調査主体 小林市教育委員会

教　育　長	山　口　寅一郎
社会教育課長	中津留　圭吾
同　　係長	有　園　克己
同　　係員	安　楽　究
調　查　員	中　村　真由美

調査協力 宮崎県教育庁文化課

主　任　主　事　　面　高　哲　郎

4. 本書の執筆は、中村真由美が担当した。
5. 本報告の方位は磁北である。またレベルは海拔絶対高である。

本文目次

I.はじめに	1
II.地理的環境と歴史的環境	1
III.発掘調査の概要	3
IV.1区について	4
V.2区について	5
VI.まとめ	10

挿図目次

第1図 市内遺跡分布図	2
第2図 基本層序	4
第3図 遺構分布図	6
第4図 遺構実測図	7
第5図 遺物実測図1（土器）	8
第6図 遺物実測図2（石器）	9

図版目次

鬼塚ヒレ原遺跡遠景	11
2区全景	12
遺物	13~14

I. はじめに

発掘にいたる契機

宮崎県西諸県農林振興局では、平成元年度から鬼塚地区特殊農地保全整備事業を実施している。平成3年度工事予定地内で土器散布が確認されたため、平成3年1月16～17日に試掘調査を行ったところ、弥生土器、炭化物などが発見された。

この工事予定地内で遺跡の所在が確認されたため、西諸県農林振興局、黒沢津土地改良区、県文化課、市教育委員会の4者で協議を行った結果、総面積45haのうち工事によって包含層が削平を受ける部分については発掘調査を実施することとなった。

調査期間は平成3年11月6日から平成4年1月10日までである。

II. 地理的環境と歴史的環境

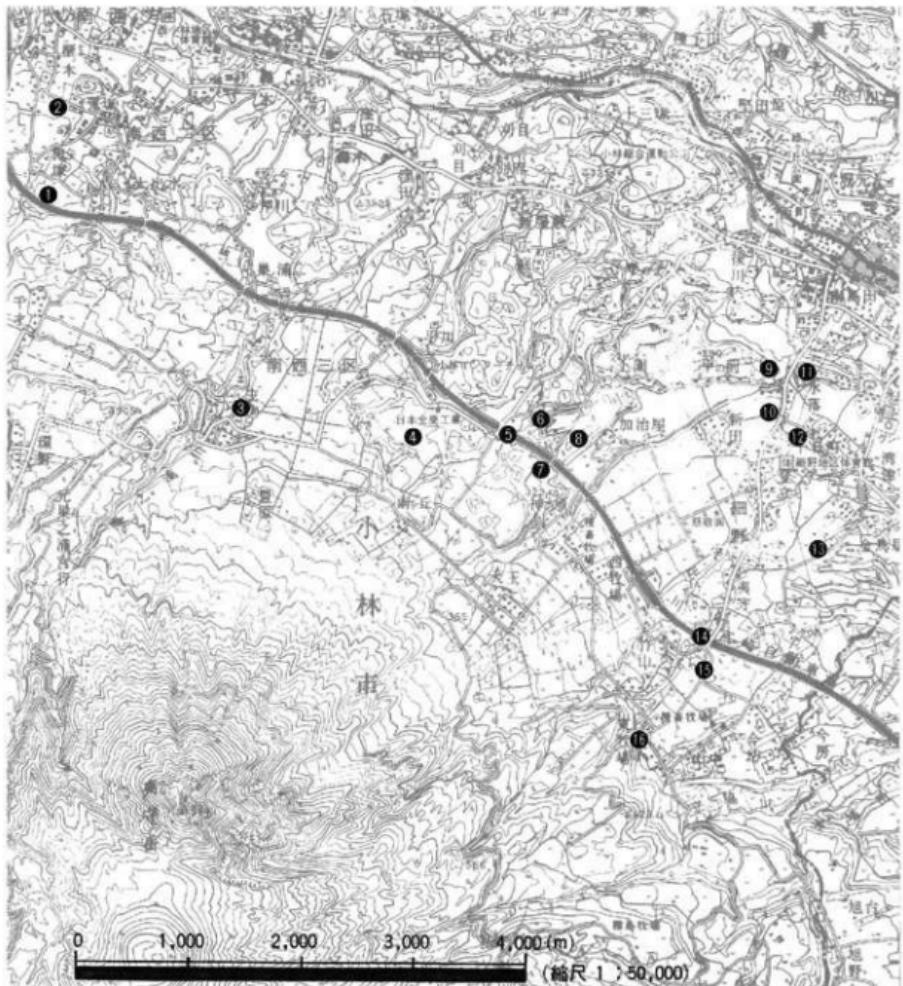
地理的環境

小林盆地は、北を四万十層群からなる裏日向山地、西を加久藤溶結凝灰岩からなる溶灰岩台地に、また南を霧島火山群によって囲まれている。地形は、四万十層群を基盤とする扇状地を、海拔200mのシラス台地とからなり、シラス台地の上部には霧島火山などの噴出物が堆積している。盆地内を石冰川などの小河川が流れ、合流して大淀川の支流岩瀬川となって東流する。また、市内には湧水も多く、約50ヶ所所在する。

歴史的環境

当地では、本田遺跡、笠木場遺跡などの縄文時代早期・前期の遺跡や新田場地下式横穴墓群、東二原地下式横穴墓群などの古墳時代の遺跡が知られている。

現在市内で確認されている遺跡は約40ヶ所あるが発掘調査されたものは數カ所で、実態は不明である。



- | | | |
|-----------|-------------|-----------|
| ① ヒレ原遺跡 | ⑦ 駒栗毛A 遺跡 | ⑬ 小林市横穴墓群 |
| ② 鬼塚遺跡 | ⑧ 出の山遺跡 | ⑭ 竹山遺跡 |
| ③ 生駒遺跡 | ⑨ 前ノ原遺跡 | ⑮ 竹山南遺跡 |
| ④ 平川遺跡 | ⑩ 水落遺跡 | ⑯ 東牧場遺跡 |
| ⑤ 駒栗毛B 遺跡 | ⑪ 城山地下式横穴墓群 | |
| ⑥ 諏訪台遺跡 | ⑫ 新田遺跡 | |

第1図 市内遺跡分布図

III. 発掘調査の概要

遺跡の立地と環境

鬼塚地区は小林市街地から西南西へ約7km離れた霧島山の北麓の、北に緩やかに傾斜する台地上に所在する。台地の東端には冬季には渴水する岩瀬川の支流石水川が流れ、西端には川内川の支流である湧水点がある。また、北縁には浸食作用によって形成された小谷が発達し、北方向へ伸びる細長い台地が幾筋も見られる。今年度の調査地区は北東方向に緩やかに傾斜する小谷上に立地する。なお平成2年度は台地中央部の縄文時代後期の土器散布地の発掘調査を実施した。

調査の概要

鬼塚地区的発掘調査は今回で2度目である。この付近は小字をヒレ原のいうところから名称を鬼塚ヒレ原遺跡とした。

今回の調査対象地は2ヶ所あり、それぞれ高速道路横の畠を1区、それから北東に約60m離れた道路予定部分を2区とした。

1区・2区ともゴボウのトレンチャーによる掘削のため、20m間隔で深さ約1m、幅15cmの擾乱部分が平行に走っている。

調査の方法

まず土層確認のため1m×2mのトレンチを4ヶ所設定し、重機で表土（耕作土）を除去した。そのうち遺構検出を行い、2区から掘立柱建物などの遺構が発見されたので、10m四方の測量杭を設置し、2m×2mのグリッドを設定した。測量終了後、発掘を行い、終了後再び重機で北東隅のあぜを取り除き、遺構検出を行ったが、発見されなかった。

基本層序

当遺跡の基本層序は、第1層は茶褐色の耕作土である。第2層は灰褐色土層でやや堅くしまっている。第3層は黒褐色土層で炭化物が混入している。場所によっては検出されない。第4層は、二次アカホヤと呼ばれる橙褐色の火山灰土である。粒子は細かいが下位土層との境界ではやや粗くなる。第5層は、アカホヤと呼ばれる明るい橙褐色の火山灰土である。第6層は、カシワバンと呼ばれる青灰色土層である。

以上のとおり、調査区内で層の厚さなど若干異なるが基本的には同一である。

→ III 黒 褐 色 土	I	耕作土
	II	灰褐色土
	IV	二次赤ホヤ
	V	アカホヤ
	VI	カシワバン

第2図 基本層序

IV. 1区について

1区は南西-北東方向に中央がやや盛り上がっていたが、畑の開墾時にその部分が削平されている。そのため、1区北西・南東端は2次アカホヤ層が残っているが、中央部はアカホヤの下層からカシワバンの上層が露出している。また、北西部は傾斜しており、開墾時に30~40cmの盛土を施している。

1区では遺構は検出されなかったが、北西端盛土下の2次アカホヤ層から縄文式土器片が数点と、ゴボウのトレチャーメー跡からは弥生式土器片が1点出土した。

V. 2区について

2区は西北西－東南東方向に緩やかに傾斜している。西北西端は削平され、アカホヤ、カシワバンが露出している。

遺構

掘立柱建物跡（1～10号）

掘立柱建物は、南側に4軒、北側に6軒、計10軒検出された。1間×2間のものと1間×3間のものがあり、前者は主軸が北北東－南南西方向であるのに対し、後者は主軸が西北西－東南東方向と直交している。1間の広さはおよそ2～2.5mで、前者のはうがやや広い。柱穴は径20～30cm前後で、埋土は黒褐色であった。柱痕、掘方などは確認できなかった。建替は2～3回行われているものもあるが、前後関係は不明である。遺構としてはほかに北側の6軒と中央部を区切るように棚列状の柱穴が見られる。時代については、弥生式土器の破片が出土しているところから、弥生時代と思われるが詳細は不明である。

土塙（SK1～14）

土塙については、円形が9基、楕円形が5基検出された。円形のもので直径約1m、楕円形のもので、長径約1m、短径約60～70cmである。深さは、検出面から約10～15cmで、ほぼ垂直に掘り込まれている。底部は水平である。埋土はいずれも灰褐色土で固くしまっていた。

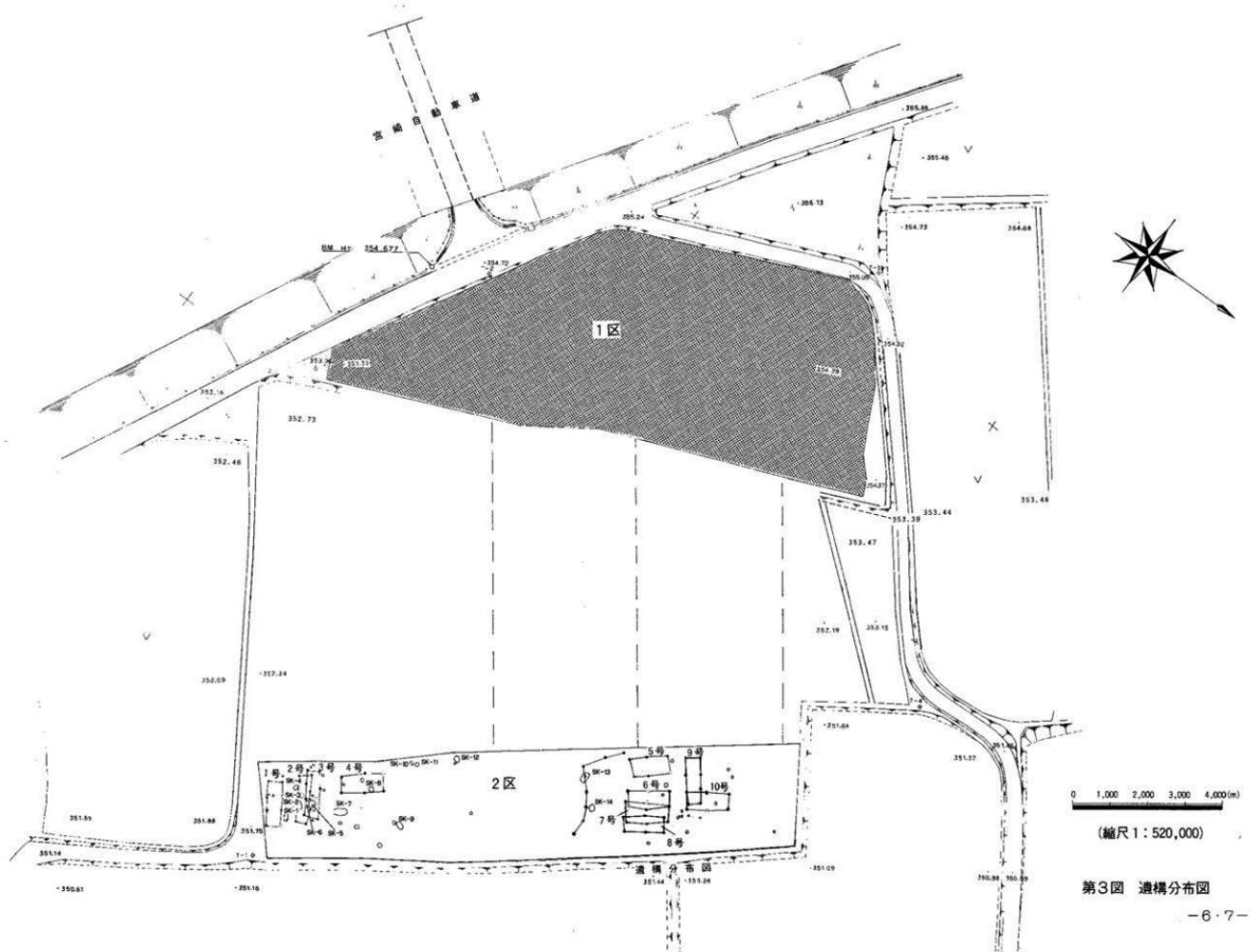
遺物

縄文式土器、弥生式土器、石器が出土した。遺構に伴うものではなく、いずれも2次アカホヤ層からの出土である。

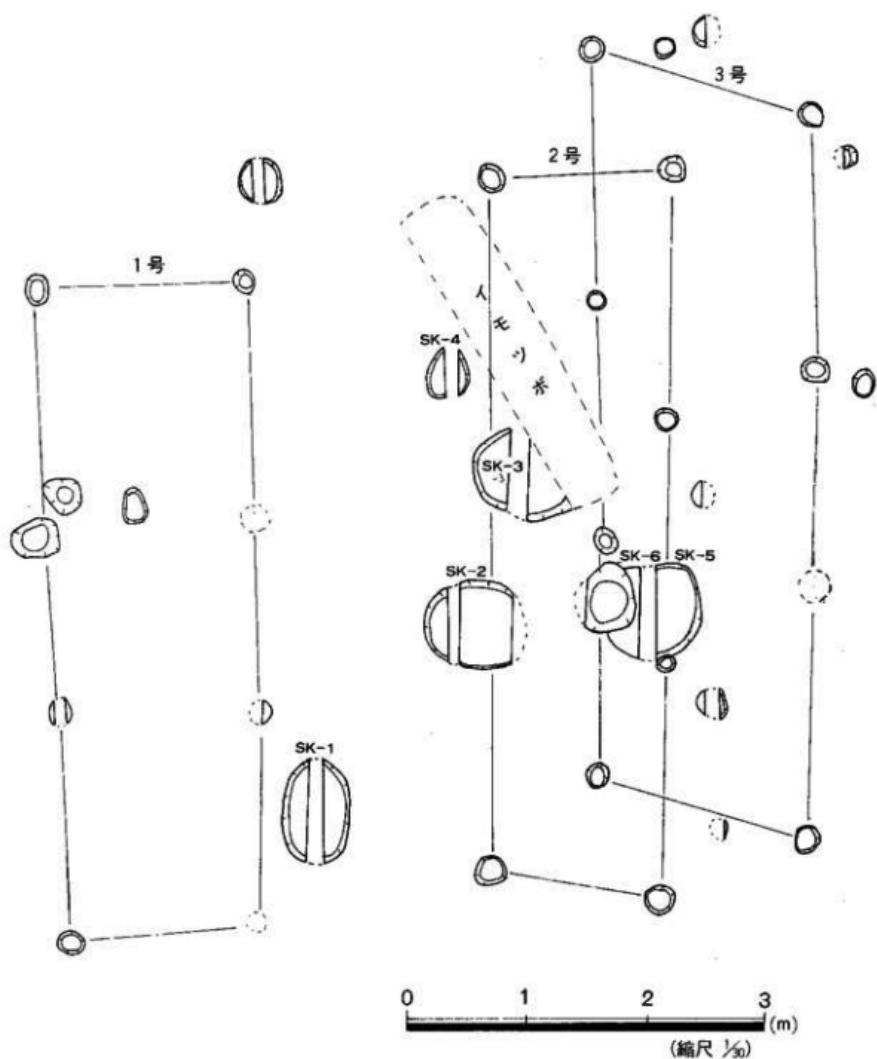
土器

縄文式土器

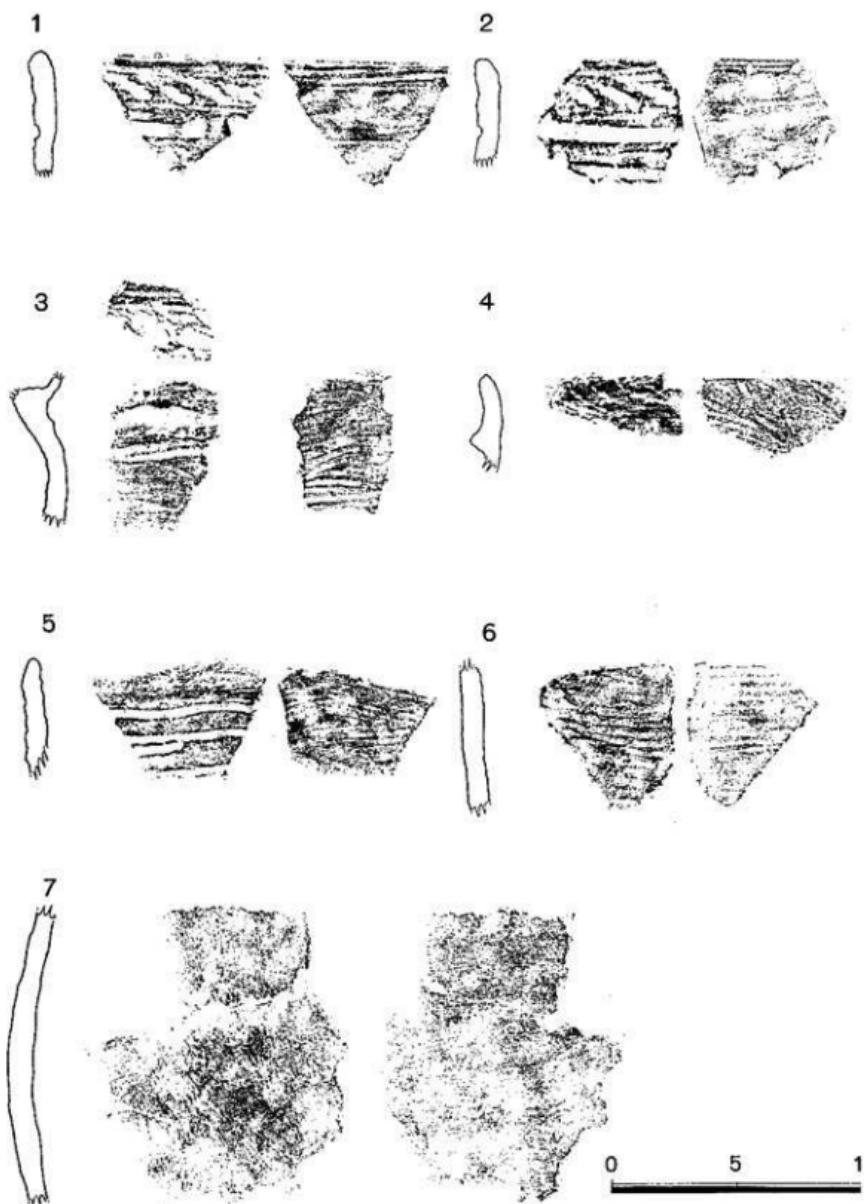
いずれも破片である。時期については縄文時代後期中葉と思われる。出土場所は南側、特に西側の土手下付近に集中して出土した。



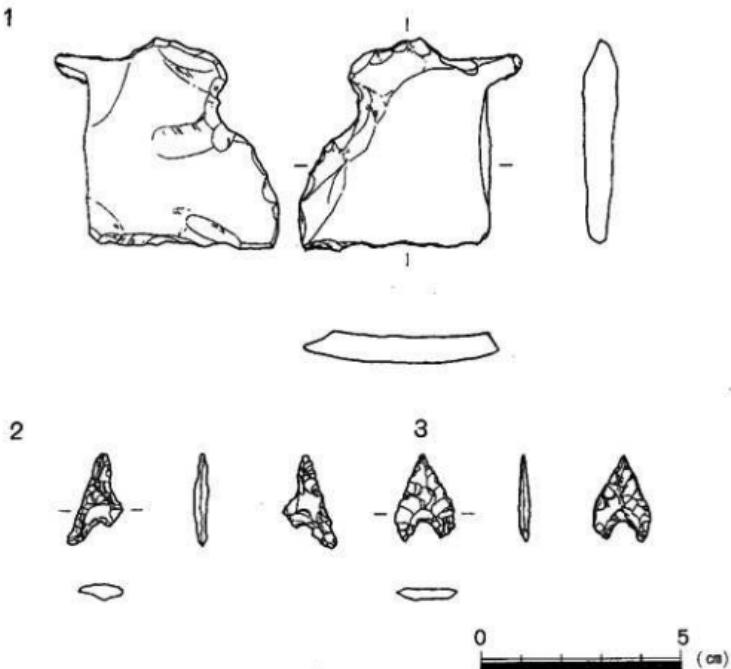
第3図 遺構分布図



第4図 造構実測図



第5図 遺物実測図1 (土器)



第6図 遺物実測図2（石器）

弥生式土器

細片が10点ほど出土した。出土場所は縄文式土器と同じである。

石器

1は、石匙の破片である。ほぼ中央で半分に割れた状態である。北西端のゴボウの深耕跡から出土した。

2は黒曜石製、3はチャート製の石鎌である。南側の2次アカホヤ層から出土した。

VI. まとめ

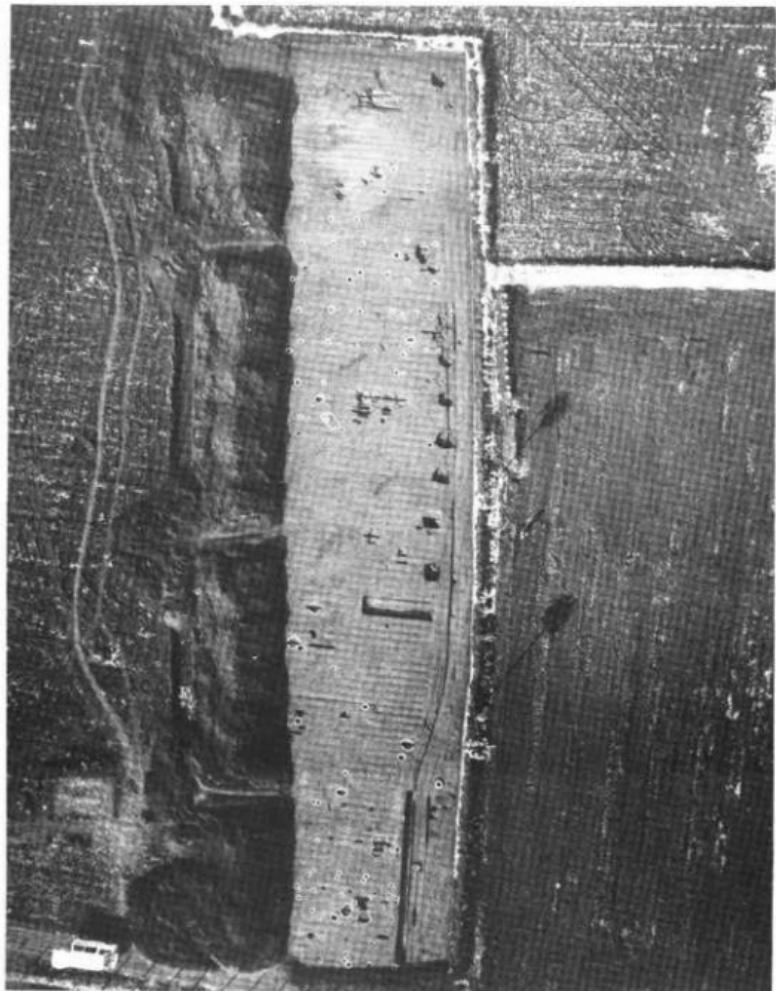
この鬼塚ヒレ原遺跡では、2次アカホヤ層が縄文時代の遺物包含層で、その上に弥生時代の掘立柱建物が作られたものと思われる。鬼塚地区における弥生時代の遺構の確認は今回が初めてであり、今後近辺で住居跡や墓地などの発見が期待される。土塙については、時代、性格ともに不明であり、今後の出土例の増加を待ちたい。

参考文献

- ・「水落遺跡」
『小林市文化財調査報告書』第1集 小林市教育委員会 1990
- ・「東二原地下式横穴墓群」
『小林市文化財調査報告書』第2集 小林市教育委員会 1990
- ・「鬼塚遺跡」
『小林市文化財調査報告書』第3集 小林市教育委員会 1991

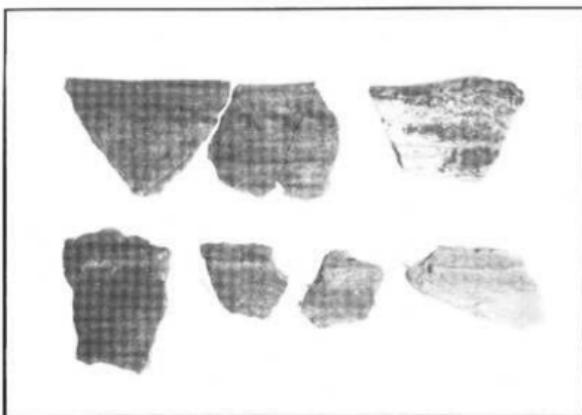


鬼塚ヒレ原遺跡遠景

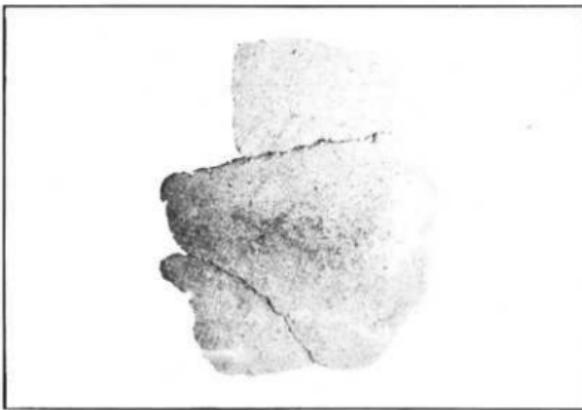


2区 全景

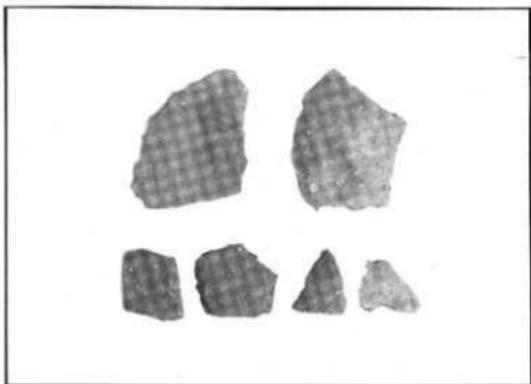
図 版



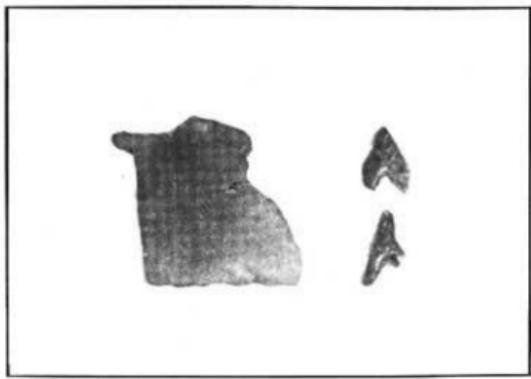
縄文式土器(口縁部)



縄文式土器(胴部)



弥生式土器



石器

小林市文化財調査報告書 第4集
鬼塚ヒレ原遺跡

発行年月 平成4年3月31日

編集・発行 小林市教育委員会

印 刷 こ そ の 印 刷